

2010年7月25日（日）南日本新聞 広告企画

企画・制作／南日本新聞社 広告営業本部

チェック表

こんな経験はありませんか？

- 下垂体や脳の腫瘍が原因で検査をしたり、手術や放射線治療を受けたことがある
- 頭部に重いけがを受けたり、クモ膜下出血をしたことがある
- 小児期に「成長ホルモン分泌不全性低身長症」と診断され、成長障害があった

そのうえで、こんな症状はありませんか？

- 疲れやすい
- 気分が落ち込む
- 集中力が続かない
- 高コレステロール
- 肥満気味、体脂肪が高い
- 性欲減退

気になったら、
専門医に相談してみましょう

ノボ ルディスク ファーマ株式会社

〒100-0005 東京都千代田区丸の内2-1-1
www.novonordisk.co.jp

成人成長ホルモン分泌不全症についての詳しい情報はこちら

<http://www.nordicare.jp/aghd/>



成人成長ホルモン分泌不全症の 治療に医療費助成が可能になりました

成長ホルモンが出なくなる大きな原因は、脳の中でホルモンを分泌する大きな原因の損傷です。例えば、脳や下垂体に腫瘍が見つかった手術をしたことがある、放射

脳、下垂体に何らかの
傷害を受けた場合

成長ホルモンが
出なくなる原因は？

何らかの原因で成長ホルモンが不足している状態を「成長ホルモン分泌不全症」といいます。例えば疲れやすい、何事に対しても意欲が起きない、社会関係が苦手になる、精神的には鬱(うつ)状態になるなどです。また内臓脂肪が増え、悪玉コレステロールや中性脂肪が増加する、善玉コレステロールが減少するなど、若いうちから生活習慣病の不安が高まるのも事実です。心血管疾患のリスクは確実に高くなります。

その働きは骨の質を保つ、免疫機能を保つ、脂肪の代謝を促して脂肪がたまるないようにする、糖代謝を正常に保つ、筋肉の質を保ち、生殖機能を正常に保つなど様々です。記憶力や意欲を高める働きも指摘されています。

どんな治療を
するのですか？

「成人成長ホルモン分泌不全症」の治療目的は、成長ホルモン分泌不全が原因と思われる各症状、疲れやすい、スタミナ低下、集中力低下などの自覚症状や生活の質を改善し、体組成異常(体脂肪率の増加や筋肉量の低下など)や代謝障害を是正することにあります。

治療の方法は、毎日行う就寝前の自己注射です。成長ホルモンは高価な薬なので、自費で治療するには相当の経済的負担がかかるのは事実です。しかし、昨年、「成人成長ホルモン分泌不全症」が特定疾患として認められ、医療費助成制度の対象になりました。ほとんどの人が1ヵ月5000円ほどの医療費で治療できるようになりました。

過去に「成長ホルモン分泌不全症」と診断されたけれど特に治療をしてこなかった人、事故などで頭部に傷害を受けた人で気になる症状がみられる場合は、治療が可能かどうか専門医に相談してみるといいですね。これから先の人生が、明るく元気で、生き生きとしたものになるかもしれません。

成長ホルモンは、脳の下垂体から分泌されるホルモンの一つ。その働きは、成長期の子どもの身長の伸ばすだけではありません。一生にわたって全身の器官に働き掛けていく重要なホルモンです。成長期に最も多く分泌され、思春期にはピークを迎えます。その後徐々に分泌量は減っていきませんが、大人になっても一定の割合で分泌されていて、代謝の調節など健康を維持する役割を果たしています。

代謝の調節など健康を
維持する役割が

成長ホルモンの働きは
背を伸ばすだけ？



鹿児島大学医学部
脳神経外科教授

有田 和徳 先生

◆プロフィール
日本脳神経外科学会専門医
日本救急医学会認定医
日本てんかん学会専門医

線治療を受けた、交通事故などで頭部に大きなけがをした、クモ膜下出血をおこした、などのために成長ホルモンの分泌が阻害されることがあります。病気が命が脅かされる心配はなくなったとしても、そのあと、何だか元気が出ない、どうも調子が悪い、心疾患や骨粗しょう症にかかりやすいなど、つらい思いをしてきた人もいます。

成長ホルモンは大人にとっても大事なホルモン。何らかの原因で不足したらどうなるのでしょうか？
何となく気力がでなくてうつ状態、肥満気味で若いのに生活習慣病や骨粗しょう症にかかりやすいなど「生活の質がかなり失われます」と話すのは、鹿児島大学医学部の有田和徳教授。有田先生に「成人成長ホルモン分泌不全症」の治療について聞きました。有田先生は脳腫瘍(しゅよう)治療の専門家で、中でも脳下垂体腫瘍の手術は700例以上手がけています。